# 令和８年度　第９回　部長会議記録（要旨）

開催日時：令和９年 10 月７日（水）14 時 20 分から 16 時 10 分まで

開催場所：Ａ203・204 会議室

出 席 者：佐藤市長、髙田副市長、熊谷教育長、岡本総務部長、佐々木企画部長、下平リニア推進部長、牧内リニア駅周辺整備担当参事、林市民協働環境部長、下井ゼロカーボンシティ担当参事、藤本福祉部長、山﨑こども未来健康部長、市瀬産業経済部長、浅野産業経済部参事、小倉建設部長、馬場建設部参事、後藤危機管理部長、井田上下水道局長【代理 加藤経営管理課長】、福岡市立病院事務局長、佐々木会計管理者、筒井議会事務局長、秦野教育次長、堤社会教育担当参事、小澤財政課長、松井秘書課長、滝沢南信州広域連合事務局次長、櫻井企画課長

## １　理事者あいさつ

＜市長＞

・市議会第３回定例会、まちづくり懇談会の対応ありがとうございました。その中でやりとりされた内容、意見を今後どう生かすかという視点を忘れないようにすること。そのまま反映することが難しい意見だったとしても、アレンジすれば良い施策になるかもしれないという可能性も考えること。

・セブンーイレブンの会長を務めた鈴木敏文会長の関係記事に、ＰＯＳシステムを導入したときに鈴木会長が出した指示が記載されていた。売れ筋を見るのではなく死筋を見よ、という指示だった。その意図を考えてみると、売れるものだけを追うとそれに集約されて縮小均衡となる。死筋を見ることで何を切るか判断でき、そこに新しいものを入れる余地が生まれる、という意図だった。行財政改革に必要となる視点である。

＜副市長＞

・水道料金の改定について、上下水道事業運営審議会で真剣に議論いただいた。その過程を議会の産業建設委員会の皆さんは傍聴され、それを元にしっかり議論をして、本会議を迎えるという積重ねがあった。私どもとしては真剣に議論いただいて大変ありがたかった。これから市民に負担を求めるような議案を提出するときの参考になる整理の仕方であったと感じた。ありがとうございました。

＜教育長＞

・運動会や文化祭多く行われており、こどもが考える種目が増えている。

・学校訪問をする中で、家庭訪問や通知表の回数を減らすなど、減らすものが増えてきたと感じる。人と人のつながり、相互理解の機会が減っていくことを危惧する。どうやってつながるか。新たな形をつくっていく必要がある。

## ２　令和８年飯田市議会第３回定例会の反省について

（1）本会議・一般質問について

（議会事務局長）

・総務文書課と企画課の事務支援もあり、議案補足説明資料をきちっと用意していただけた。真摯に議案に向かうことができ、ありがたかった。

・質問項目が多い議員の場合は、所定の時間に収まるよう、答弁を簡略化するよう執行機関側もご配慮いただきたい。
・土地取得の議案は、対象となる全ての地番を記載すべきである。
・水道料の改定に係る議案は特にしっかり議論できた。議案に合わせて陳情がでる初のケースだったが、議案審査に入る前に陳情者の意見を聞いた上で、附帯決議をする良い前例になった。

（企画部長）

・土地取得の議案は産業団地に関する議案。70 筆取得するというものであったが、それがどの地番にあたるのか記載が無かった。補足説明資料ではなく議案の中で、全ての地番が分かるようにする必要がある。

（産業経済部長）

・当該議案の「飯田市竹佐 55 番１を除くほか 70 筆」という表記としたことについて議員から質問があった。総務文書課と相談する中で、そういう表記にするという指示があったものだが、分かりやすさの観点からどのような表記が適切なのか。

（総務部長）

・法制執務として正しく書くとすれば、あの表記になるということだった。今回の反省を踏まえて今後整理する。

（市長）

・開会あいさつで決算概要を説明したが、財政課長の説明と同じ内容だったので意味が無い。市長あいさつと担当課長説明は整合を図る必要がある。

(2) 常任委員会、分科会について

（教育次長）

・主要な施策の成果説明書について、後期計画になったことにより成果指標が令和７年度からの表記となっているが、令和６年度の実績と絡めた質問があり、その場では答弁できず持ち帰る場面が複数回あった。資料に示すものより過去の内容についても、答弁準備が必要という認識でよいか。

（議会事務局長）

・決算を評価するとき、過去に遡って確認する議員もいるため、過去のことについて関係を確認するのは自然な流れである。説明できるよう準備してもらいたい。

（企画部長）

・概ね過去２年くらいは遡ってみることがある、と受け止める。そこまで準備をお願いする。

（議会事務局長）

・質問に対する答弁が噛み合わない場面もあった。例えば補助金の関係で予算額と実績の乖離が大きく、その差に対する質問があったが、その答弁が「補助金を広く周知します」というものだった。なぜそうだったのかを問う趣旨であり、今さら周知したところで実績が変わるものではない。議会答弁の準備をする以前に、各事業に対する振り返りをきちんと行い、背景や課題を整理しておくことが必要である。それではじめて適切な答弁ができる。また、事務事業実績評価表についても内容を理解してもらえるよう記載を工夫してもらいたい。

（企画部長）

・決算認定説明では、財政課から指示があったように、予算と決算の乖離が大きい場合はその理由を説明することとしているが、乖離の理由に触れない説明があった。仮に明確な理由が示せなくとも、

考えられる理由や背景を述べるなど、納得できる説明をしてほしい。また、年度途中で補正したのになお予算残額がある場合などは、決算額だけでなく、予算計上の途中経過も含めた準備が必要。

・再編後の遠山小学校の校章校歌に係る予算はなぜ当初予算に計上していなかったのか、という質問に対して、財政課との調整で補正対応することになった、という答弁内容が座長報告に記載されていた。議員（庁外）からの質問に対して、庁内調整結果を示すのは適切な答弁といえない。なぜその判断に至ったのかを執行機関として示すべきである。

## ３　連絡事項

（1）令和９年度当初予算編成について（総務部）

（2）飯田市制 90 周年記念事業について（企画部）

（3）「市長と語るまちづくり懇談会」における地区からの課題要望等への対応について（市民協働環境部）

## ４　閉会